



# 目次

序	朝永振一郎		院	三菱・広島造船所構内病院	広島
I 発端		6	島通信病院	広島赤十字病院	(回想)
II 「新型高性能爆弾」		9	重藤文夫		
広島・その日		9	III 初期調査はじまる		42
私はそこにいた	監視哨報告	最初の報道	呉鎮守府調査団	海軍広島調査団	
火災・旋風・黒い雨	宇田道隆	13	技術院調査団の派遣	大本営, 有末調査団を派遣	陸軍省災害調査班(当時をかえりみて)
初期救護活動・広島		18	山科清	京都大学調査団	大阪大学調査団
緊急非常事態	宇品船舶司令部	船舶練習部第10教育隊	南大橋付近		
斎藤部隊本部	東練兵場付近	爆心			
周辺	避難路と救護所	夜があけて			
救護部隊の到着					
似島臨時救護所		29	「判決」		47
宇品 船舶練習部		32	「広島爆弾調査報告」	レントゲンフィルムの感光	
大和人絹広島工場	8月6日	野戦	最初の新聞発表		53
病院の設営	陸軍軍医学校派遣調査班		放射能を追って		55
焼け残った病院		36	仁科博士の西下	「観測するモルモット」	玉木英彦
陸軍共済病院	広島第一陸病・江波分		放射能の測定		
			IV 未知の原爆症		63
			「原子爆弾症の恐怖」	現地医師の体験	
			ある新劇女優の死	「医学も揺らぐ原子爆弾の惨」	都築博士一行の西下

原子爆弾症講演会 「所謂原子爆弾傷 の医療方針」都築正男 [解説]「広島 と長崎の原爆」		仁科博士 長崎へ	109
<b>V 長崎被災</b>	69	<b>VI 学術調査</b>	111
爆発の瞬間	69	原爆調査特別委員会	111
香焼島監視哨 大村からの観察 針 尾海兵団からの観察 長崎測候所での 観測		長崎における調査活動 不可解な事件 「原爆災害調査報告書」 原爆調査回顧 菅義夫	
「長崎地区憲兵隊報告」	72	枕崎台風による遭難 回想 木村毅一	119
長崎医科大学	78	日米合同調査団の経緯	121
「長崎医大の壊滅」調来助		災害調査のいくつかの課題	125
長崎・避難と救護	85	被曝線量の問題 「仁科博士のメモ」よ り 遮蔽効果について 死亡統計に ついて	
その日の旧市内 救護組織の壊滅 勝山国民学校臨時救護所 飽ノ浦三菱 病院 浦上——爆心周辺 浦上工場 群の被爆 その後の浦上 大橋以北 救援列車		「仁科報告」	129
諫早 大村海軍病院	101	<b>VII 原爆記録映画</b>	131
諫早海軍病院 大村海軍病院他		映画採録	131
新興善救護病院	104	「広島篇」	132
		一般被害 物理——影について 熱 放射能	

生物への影響			
人体への影響			
「長崎篇」	157		
一般被害			
物理——放射能 影について 熱 爆風			
人体への影響			
生物への影響			
<b>VII<sub>2</sub></b>	181		
物理学者の体験 篠原健一	181		
長崎日記抄 中山弘美	185		
医学班撮影日記 山中真男	190		
<b>VIII 資料</b>	195		
「原子爆弾」 仁科芳雄	195		
被爆見聞 原子爆弾の証明 人体及 び生物に対する影響 爆弾の投下状況			
長崎の場合 原子爆弾の原理			
「原子爆弾」訂正 仁科芳雄	202		
「広島市における原子核学的調査」			
荒勝文策	204		
		「広島市における医学的調査」	
		杉山繁輝	209
		針尾海兵団救護隊報告	211
		原子爆弾症の病理	
		木下良順・三宅仁	215
		<b>IX 終章</b>	218
		消えた都市・消された人間	
		加納竜一	218
		無差別爆撃 都市機能の崩壊 医療	
		以前 火災旋風 葬られざる死	
		原爆投下と講和 ウェルズの予言	
		原爆記録写真について 相原秀次	223
		広島の記録 長崎の記録	
		後記 山崎文男・田島英三	231
		図版目次	233
		挿図目次	236
		INDEX	241